



特集

みんなで創る 広川町の未来

環境課生活環境係 ☎ 0943-32-1138

広川町ゼロカーボンシティ宣言

広川町では、2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言しています。

ゼロカーボンシティとは、温室効果ガスの一種である二酸化炭素の排出量と吸収量が、プラスマイナス0（ゼロ）の状態であるまちのことです。ゼロカーボンシティを実現するためには、私たち一人ひとりが地球環境に強い危機感を持ち、自分たちにできることを一つひとつ進めていくことが求められます。

脱炭素社会の実現に向けて、町民・事業者・行政が一体となり“オール広川”で取り組んでいくことを宣言したものが「広川町ゼロカーボンシティ宣言」です。

オール広川で取り組むために

ゼロカーボンシティの実現に向けて、オール広川で取り組んでいくために、「ゼロカーボンシティひろかわ推進連絡会議」を設置しました。

この会議は、地域全体の取り組みや方向性を議論することを目的とし、さまざまな立場の人で構成されています。



二酸化炭素が増え続けるとどうなる？

①気温の上昇



30℃以上の暑い日が続き外出が困難になる、脱水症・熱中症が多発する。

②海面の上昇



氷河が溶けて海の水位が上昇し、浸水被害が起きる。

③自然災害が多発



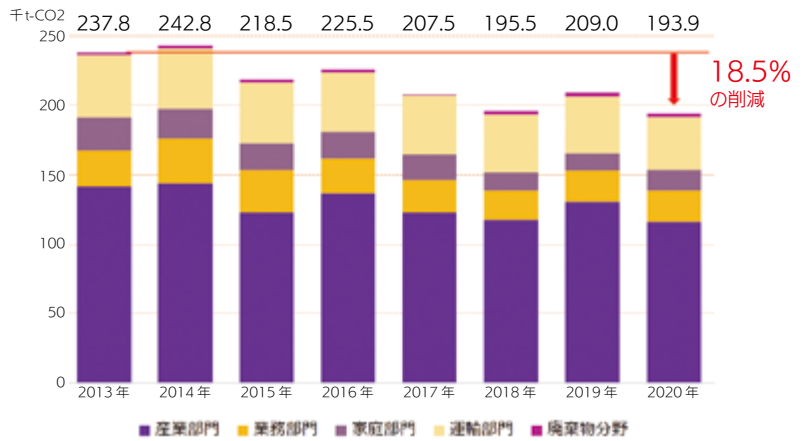
豪雨災害・大型台風が発生する。

④生態系への影響



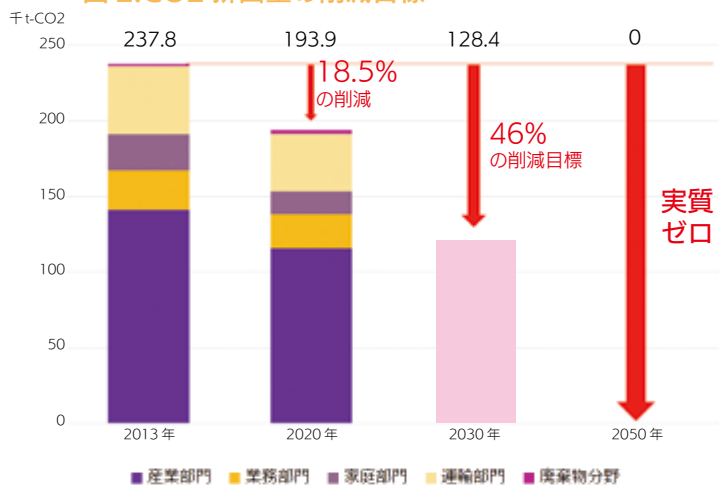
猛暑や干ばつ、海面温度の上昇により、農業や漁業などの食料生産に影響が生じる。

図 1. 広川町の二酸化炭素排出量の推移



2013年と2020年を比べると、全体で18.5%削減できました。2030年には46%削減（年間排出量128.4千tまで減らす）を目標としています。

図 2. CO2 排出量の削減目標



広川町脱炭素ロードマップとは？

脱炭素社会の実現を「まちづくり」として捉え、自立した地域づくりの実現を目指し、その道筋や取り組み例を示すことを目的に策定した長期ビジョンです。

地域脱炭素の実現には、町民・事業者・行政が一体となり、目指すべき姿や方向性を共有し、足並みをそろえて取り組んでいくことが重要となります。そこで「広川町脱炭素ロードマップ策定に係る協



議会」でビジョンづくりに取り組み、自分たちが住み続けたいまちについて意見を出し合い「ドリームマップ広川」を作成しました。

SDGs ワークショップを開催しました

広川町脱炭素ロードマップを基に、住民・企業・行政の「オールひろかわ」で持続可能なまちづくりを進めていくための気概づくりを目的としたワークショップを開催しました。

SDGs ってなに？

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年の国連サミットで採択された、貧困や気候変動などの地球規模の課題を解決し、2030年までに「誰一人取り残さない」より良い世界を実現するための国際目標です。

SDGsは17の目標と、それを達成するための169のターゲットで構成されています。



● 2030 SDGs（カードゲーム）

SDGsが達成される未来を目指し、2030年までの道のりを体験するシミュレーションゲームです。

カードゲームを通して「なぜSDGsが私たちの地域に必要なのか」「SDGsの達成でどんな変化や可能性があるか」を体験し、町民同士の対話を行いました。

● 脱炭素まちづくり PLAY（カードゲーム）

「脱炭素のまちづくりを実現すると具体的にどのような変化が起きるのか」「脱炭素を推進するためには具体的にどのような行動が必要なのか」を体験しました。

● SDGs de 地方創生（カードゲーム）

SDGsの考えをヒントに、地方創生における「全体性」や「対話と協働」の重要性を体感的に学ぶゲームを行いました。



● コミュニケーション・グラフィック

パンフレットの切り抜きや手書きのイラストを用いて、町民が広川町の理想の未来像を表現し互いに対話しながら発表、共有を行いました。

ジュニアレポーター募集

広川町で環境や地域の未来を考えて活動している、企業・団体・地域の人を取材するジュニアレポーターを募集します。

「広川町ではこんな未来づくりが始まっている」「自分たちにもできることがある」など、感じたことを記事にしてもらいます。取材を通して、広川町の未来づくりを「自分ごと」として感じてもらうことが目的です。

詳細は、決定次第ホームページなどでお知らせします。

圏（申し込み）環境課生活環境係
☎ 0943-32-1138

